



第2次 秋田市エイジフレンドリーシティ (高齢者にやさしい都市) 行動計画 ～概要版～



エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)の 実現に向けて

健康長寿の実現は、私たちが目指す理想の姿です。

年齢を重ねた人生の先輩たちが、地域社会の支え手としていきいきと活躍し、

高齢になっても自己実現をすることができる社会は、

全ての世代にとっての希望であり、秋田市の元気を生み出す源です。

私たちは、そのような誰もが住んでいて良かったと思えるまちを目指します。

「エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)」とは、世界的に進行する高齢化に対応するためのプロジェクトであり、2007年に世界保健機関(WHO)が提唱しました。



秋田市におけるエイジフレンドリーシティの取組

本市は、平成23年に、日本国内の自治体として初めて、WHOエイジフレンドリーシティグローバルネットワークに参加し、平成25年には、第1次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画(平成25年度～平成28年度)を策定しました。

第1次行動計画においては、高齢者の社会参加・生きがいづくりの促進、市民活動団体による普及啓発事業、民間事業者等による高齢者や障がい者等に配慮した取組などを推進し、地域社会全体でエイジフレンドリーシティに取り組む体制を築きました。

年度	主な取組
平成21	●エイジフレンドリーシティ構想の推進に着手
平成22	●第12次秋田市総合計画の成長戦略の一つに、「エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)の実現」を位置づけ
平成23	●高齢者コインバス事業を開始 ●WHOエイジフレンドリーシティグローバルネットワークへ参加
平成24	●介護支援ボランティア制度を開始 ●傾聴ボランティア養成事業を開始
平成25	●第1次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画を策定
平成26	●エイジフレンドリーシティカレッジリレーセミナーを開始 ●エイジフレンドリーシティ通信の発行を開始
平成27	●シンボルマークを設定  ●エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業を開始 ●秋田市エイジフレンドリー指標を設定 ●高齢者コミュニティ活動創出・支援事業を開始(3年計画) ・市内4モデル地区において、支えあい仕組みづくりのためのワークショップを開催 ・展覧会「2240歳スタイル～時間を味方にする人生の先輩たち～」を開催
平成28	●高齢者コミュニティ活動創出・支援事業を実施(2年目) ・市内4モデル地区における、支えあい仕組みづくりの活動を支援 ・秋田で長く楽しく暮らすための方法を見つける公開講座とワークショップを開催 ●第2次秋田市エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)行動計画を策定



市内の路線バスに100円で乗車することができる、高齢者コインバス事業



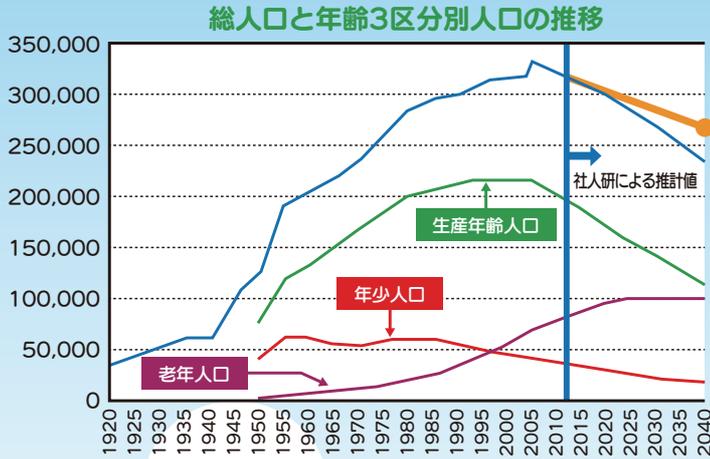
高齢化をテーマにした展覧会を秋田県立美術館で開催



秋田市の現状と目指す将来人口

本市の総人口は、市町村合併を行った平成17年には33万人を超えましたが、その後は減少を続け、平成52年(2040年)には約23万5千人になると、推計されています。

人口構造は、老年人口割合が増加を続け、生産年齢人口割合に近づいていくと推計され、さらに超高齢社会が進行すると考えられます。



本市が目指すべき将来人口: 約26万人

平成52年(2040年)の推計値(社人研※)

総人口	約23万5千人
【人口構造】	
老年人口(65歳以上)	42.3%
生産年齢人口(15~65歳未満)	49.4%
年少人口(15歳未満)	8.3%

※社人研: 国立社会保障・人口問題研究所

※年少人口: 15歳未満 生産年齢人口: 15歳以上65歳未満 老年人口: 65歳以上
 ※2010年までの総人口は国勢調査および秋田市情報統計課推計人口より作成
 ※2010年までの年齢3区分別人口は国勢調査より作成
 ※2015年以降は社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」より作成

本市では、平成28年に「秋田市人口ビジョン」と「秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、目指すべき将来人口を平成52年(2040年)に約26万人と定め、その実現に向けて着実に取り組んでいくこととしています。

課題

重点的に取り組むべき項目

第1次行動計画では、エイジフレンドリーシティの実現に向けて数々の取組を推進してきました。しかし、加速する少子高齢化の影響により、本市はさまざまな課題に直面しています。元気な地域社会を次の世代に引き継いでいくために、今後、重点的に取り組むべき項目をまとめました。

主な課題	内容
地域コミュニティの再構築	地域のつながりの希薄化に伴い、除雪や見守りなど地域で助け合える環境づくりが必要
担い手不足、人材不足への対応	ビジネス、自治活動などさまざまな場面において人材が不足していることから、高齢者の活用や地域の多様な担い手育成が必要
地域社会の課題解決に向けたビジネスの新たな展開	高齢者の多様な能力活用やコミュニティビジネスの創出を支援し、地域社会の課題解決や活性化につなげる必要がある



第2次行動計画の概要

1. 趣旨

第1次行動計画で達成された成果をさらに発展させ、行政、市民、民間企業・団体の協働による地域課題の解決を目指します。

そして、超高齢社会の課題解決先進地として、高齢者のニーズや多様性を深く理解し、活かすことにより、地域社会や経済の発展につなげる「秋田市モデル」を推進します。

2. 計画期間

平成29年度～平成33年度までの5年間とします。

3. 体系

「基本理念」、「基本目標」、「4つの領域と領域別施策」、「重点施策」により構成されます。



4. 計画の推進

推進体制

- 1 有識者等による「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会」で、幅広い立場からの提言・助言を受けながら推進します。
- 2 全庁で横断的かつ継続的に取組を推進するために、「(仮称)エイジフレンドリーシティ庁内会議」を設置します。
- 3 市民や民間企業・団体など、さまざまな主体の取組を促進します。

進行管理

本計画では、計画策定(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)といった「PDCAサイクル」により、計画の管理と質の確保を図ります。施策の実施状況については、本市が設定した「秋田市エイジフレンドリー指標」を活用するなど、定期的に点検・自己評価を行い、次年度の取組への反映、必要に応じた計画の見直しを行います。

5. 基本理念と基本目標

基本理念

市民一人ひとりが豊かにいきいきと暮らすことができ、高齢者が社会の支え手として活躍できる社会の実現に向け、本市の目指すべき姿として、以下のとおり基本理念を設定します。

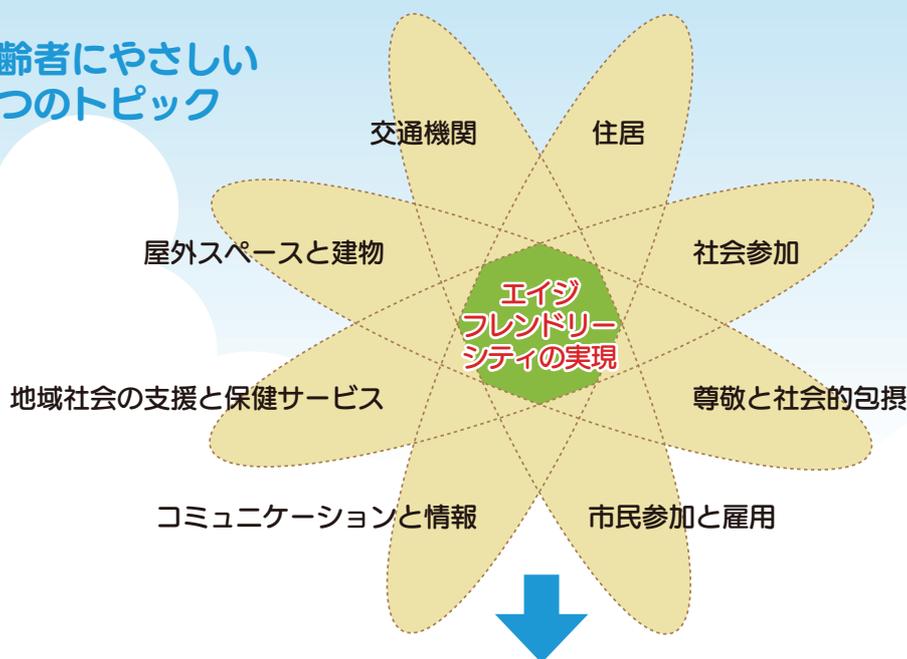
心豊かで活力ある健康長寿社会

この理念のもと、エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現を推進します。

基本目標

WHOが定めた「高齢者にやさしい8つのトピック」に基づき、本市の基本理念を実現するためのまちづくりの方向性を示すものとして、8つの基本目標を設定します。

高齢者にやさしい 8つのトピック



目標1	安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備
目標2	交通機関の利便性の向上
目標3	安心して快適に住み続けられる住環境の整備
目標4	生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進
目標5	あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり
目標6	高齢者の就業や市民参加の機会創出
目標7	高齢者の情報環境の整備
目標8	多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり

6. 施策

領域別施策

基本理念と基本目標の達成のために4つの領域を設け、各領域において、庁内の関係各課が課題を共有し、連携して取り組むべき施策を「領域別施策」として設定します。

基本理念

基本目標

4つの領域

【空間環境基盤】

【社会生活基盤】

【産業・経済基盤】

【教育・文化基盤】

領域Ⅰ 空間環境基盤

自然環境や都市基盤、住宅、コミュニティ施設など、市民の生活の器となる物的・空間的な基盤です。

方向性

安心して外出できる環境を整備し、人と人、人と地域のふれあいが深まるまちづくりを進めます。

施策

- 1 中心市街地と6つの地域中心を核としたコンパクトなまちづくり
- 2 地域の移動手段の確保
- 3 安全・安心で雪に強いまちづくり

領域Ⅱ 社会生活基盤

地域社会の交流と支えあい、ケアや福祉、地域におけるコミュニティ活動等に関わる制度や仕組みといった社会的な基盤です。

方向性

活力ある地域コミュニティづくりに必要な人材、拠点、交流の機会を創出します。

施策

- 1 住民主体のコミュニティ活動の創出と推進
- 2 高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進
- 3 多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進

領域Ⅲ 産業・経済基盤

秋田市の経済をけん引してきた多くの産業、秋田の強みである「地域資源」を活かした産業といった経済的基盤です。

方向性

知識や経験を活かして多様な形で活躍できる「生涯現役型社会」の実現を目指し、一人ひとりの活躍を総合的に支援する体制づくりに取り組みます。

施策

- 1 超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出・支援
- 2 高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築
- 3 地域課題解決につながるコミュニティビジネスの推進

領域Ⅳ 教育・文化基盤

人間らしく生きていくために必要な心とからだの支えとなる文化的基盤と、文化を伝達・継承し発展させるための教育基盤です。

方向性

一人ひとりが自己実現できる環境づくりを進め、「これからも住み続けたいと思えるまち」の実現を目指します。

施策

- 1 生涯を通じた文化・スポーツ活動の推進
- 2 多世代が交流し、支えあう地域づくり
- 3 秋田に誇りと愛着を持つひとづくり

領域別施策

領域別施策

領域別施策

領域別施策

領域別施策

重点施策

重点施策

重点施策

地域社会全体で目標・理念を共有しながら、行政、市民、民間企業・団体の三者が連携して重点的に実施すべき取組を、「重点施策」として設定します。



1 産学官民一体で地域課題解決に取り組む “共創”体制づくり

高齢者の活躍・生きがいづくり、地域コミュニティの再構築、シニアビジネスの創出等に向けて、産学官民一体の共創体制の構築を図ります。

2 地域資源を活用した多様な住民主体の コミュニティ活動の推進

これまで地域との関わりが薄かった高齢者をはじめとする地域住民が、地域資源を活かしたコミュニティ活動を展開し支えあうことができるよう、地域におけるコミュニティ活動の推進を図ります。

3 経験や能力を発揮し、未来を支える 担い手の育成と人材力の強化

まちづくりを自分ごととして考え行動する、協働のまちづくりの担い手を育成します。また、意欲、個性や能力に応じて個人の可能性が最大限発揮されるよう、人材力の強化に努めます。



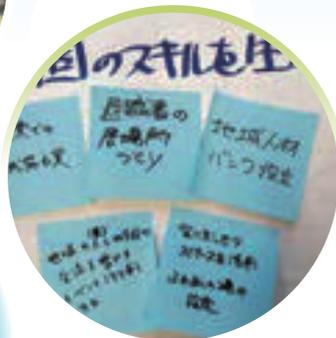
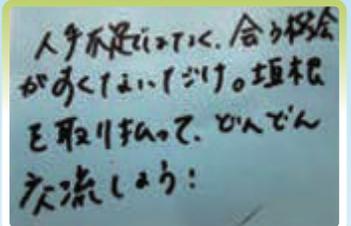
一人ひとりが心豊かにいきいきと暮らすために

第2次行動計画の策定過程において、行政、市民、民間企業のアイデアを取り入れるための意見交換会を開催し、「こんな秋田市になったらいいな」という思いを語り合いました。

秋田市は、これからも市民の皆さんとともに、高齢者をはじめ、全ての世代にとってやさしいまちづくりに取り組んでいきます。



思い
を伝える。



みんな
でつくる。

未来
につなげる。

意見交換会は、全11回開催しました。

- ・「市民の集い」(8回)
- ・「エイジフレンドリーパートナーの集い」(1回)
- ・「若手職員意見交換会」(2回)

平成29年6月発行

秋田市長寿福祉課エイジフレンドリーシティ推進担当

電話:(018)888-5666 FAX:(018)888-5667 メール:ro-wflg@city.akita.lg.jp

第2次秋田市エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)行動計画概要版は、長寿福祉課のホームページからダウンロードできます。



ダウンロードのページへ